

研究開発機構と大学

平成22年2月25日

北陸先端科学技術大学院大学長
片山卓也

大学における研究

- 教員の自由な発想にもとづく独創的研究
 - 多様な教員による基礎研究＋応用研究
 - 多様性と集中(組織的まとまり)のバランスが重要
 - 多様性だけでは, 大きな成果となりにくい
 - » まとまりによるシナジー効果, エクセレントコアの形成
 - 集中し過ぎると, 新しいアイデアが出にくい
 - 教員が研究に集中できる体制
 - 余分な学内委員会の廃止, 学長や理事への決定権の集中
 - 学生がいることの強みと弱み
 - 常に基本に立ち戻るチャンス
 - 学生指導のための労力, 時間
- 研究開発機構における研究
 - 明確なターゲットのもとでの組織的研究

研究開発人材育成

- 大学院教育の近代化@JAIST
 - 体系的カリキュラム, コースワーク, 深さ+幅
 - 質保証: 厳格な採点
 - 教育目標
 - 修士: 問題解決能力, 博士: 問題発見能力
- 質・目標の達成度合いを明確に計測できるか？
 - 科学的アプローチの必要性
 - 試験問題のあり方, . . .
 - 大学院教育イニシアティブセンター
 - FD, IR, . . .
 - 国際標準
- 博士修了生のキャリア支援
 - S-type (科学者志望) と E-type (技術者志望) では異なる支援が必要.
 - E-type では, ポスドクになってからでは遅い, 在学中の共同研究やインターシップ
 - キャリア支援を効果的に行わないと博士課程入学者は増えない

研究開発機構との連携

- 共同研究・プロジェクト
 - － 大型設備や資金を必要とする研究
 - 世界最大規模インターネットシミュレータStarBEDによる安心ネットワーク研究(情報通信研究機構)
 - ERATO下田ナノ液体プロセスプロジェクト(科学技術振興機構)
- 研究開発機構による教員の供給
 - － 客員教員, 連携講座教員, 教員
 - － 産業技術総合研究所など
- 博士課程学生のインターン, ポスドク, 研究職
 - － 産業技術総合研究所など
- 研究開発機構との連携は極めて重要

産業界との連携

- 産業界はイノベーションのセンサー
- 芽の段階から、産官学連携の共同研究を実施することが重要
 - 従来の技術移転やステージングではなく、初期の段階からの連携
- 産業界の基礎研究体力強化
 - 資金配分型研究開発法人への期待
 - 基礎研究の段階からの国主導の産官学共同研究プロジェクトの実施
 - 産業界がパートナーであることが必須な競争的研究資金
 - 産業界の基礎研究体力を強める.
 - 博士課程学生を共同研究に参加させ、企業研究者・技術者として育てる.